

昭和五年三月四日

文 部 省 檢 定 濟

師範學校及高等女學校音樂科用



昭 和
女 子 音 樂 教 科 書

永 井 幸 次
田 中 銀 之 助
共 編

卷
之
四

大 阪 音 樂 學 校 樂 友 會
出 版 部 藏 版



M. L. Cherubini.

◎マリア、ルイジ、ケルビニー

一七六〇—一八四二、在世八二年
昭和四年より八七年前歿す

ケルビニーはフローレンスに生れた
伊太利の作曲家で幼時父より音楽教育
を受け少年の頃既に對位法（作曲に關
する學問）に通じて居た。

多くの教會樂を書いた後伊太利風の
歌劇を作曲した。

尙これ等多數作品の外理論に關する
著書も少なくない。一八四二年パリに
死す。

野邊行けば

犬 童 球 溪

一、童とりて 土筆摘みて 野邊行けば

雲雀は高く 御空に歌ひ

棚引く 霞も 長閑に

胡蝶はひく、菜の葉に踊り

麥生の 伏屋も 静けし

二、花をめど、つばなぬきて 野邊行けば

春風軽く たもとにかをり

燃え立つ かげろふ 長閑に

若草青く 小みちをうづめ

流る、小川も しづけし

家 路

今 中 西 溪

一、まなびやの 授業終へて

かへる家路 日は高し

花菜 匂ふ 野道のどか

羽風 かるく 蝶の舞へる

揚雲雀 音になきて

あな あな 遠山 霞める

二、久々に 友訪ひて

かへる家路 月いでぬ

野川 清く ながれ ゆたに

うつす 花の かげも おぼる

橋古りて 人を見ず

あな あな 小舟の うかべる

野邊行けば

Cherubini.

Allegro

mf

野邊行けば

1 ス - ミレ トリテ ックシ ッミレノ
2 は - なを めてて つ - ばな めきての

ビバリハタカク
はるかせかろく
ベユケバ
はるかせか

ミソラニウタヒタナビクカ
たもごにかをりもえた一つ
ミソラニウタヒタナビク
たもごにかをりもえた一つ

一八

コテフハヒ
わかぐさあ

野邊行けば

スげろモよの 下かか ニ
コテフハヒ
わかぐさあ

クをク ナノハニチド リム
はるかせかろく なみちをうづ りめな
テフハヒクク ナノハニチド リム
わかぐさあをく ニみちをうづ りめな

ギガ フるノ
ムギフーノフセヤモシッケシ
ながるるをがはもしッけし
ギガ フるノ

一九

昭和四年四月一日印刷
 昭和四年四月十日發行
 昭和五年二月五日修正再版印刷
 昭和五年二月五日修正再版發行



昭和女子音樂教科書卷ノ四
 定價 金五拾四錢
 昭和六年度 登錄
 臨時刊行 金五拾四錢

編纂者 永井幸次
 編纂者 田中銀之助
 發行者 永井幸次
 發行者 田中銀之助
 印刷者 山中金龍堂
 發行所 大阪音樂學校樂友會

發賣所

大阪市東區北久寶寺町四丁目
 三木樂器店
 電話 給場八〇七番

ベルソウス (Berceus) 子守唄。
 ポルカ (Polka) ポヘミヤ風の快活な二拍子の舞踏曲。
 ポロネーズ (Polonaise) ポーランドの三拍子舞踏曲。
 マドリガル (Madrigal) 聲樂曲の一種で應答的に作られて居る。
 マヅルカ (Mazurka) 三拍子の活氣ある舞踏曲。
 ミヌエツト (Minuet) 三拍子の舞踏曲。ソナタの中間樂章にも此の形式が用ひてある。
 ミッサ (Missa) 「彌撒」の聲樂曲でローマ公教會の彌撒の時に歌はれる大曲である。ベートーフエン作の「莊嚴彌撒」は有名で昭和三年十二月東京音樂學校で日本初めての演奏があり全國にラヂオ放送があつた。演奏時間一時半を要す。現今は蓄音機を透して此の曲を聞く事が出来る。
 リードオーネヴオルテ (Lied ohne worte) 無言歌。メンデルゾーンによつて始められた。叙情的の趣を有し言葉なくして意味を現はさうと試みたのである。
 レシタチーブ (Recitative) 臺詞を音樂として朗讀する。
 レクイエムミツサ (Requiem missa) 鎮魂祭即ち死者を讚美する歌。
 ロマンズ (Romance) 浪漫的詩的叙事的愛情的樂曲。
 ロンド (Rondo) 作曲上、一種の形式。
 ロンディノ (Rondino) ロンドの小規模なもの。
 ワルツ (Waltz) 三拍子の舞踏曲。演奏用の樂曲にもなつて居る。シヨパンの作が有名である。

曲名の畧解